

令和6年度 自己評価結果公表シート

学校法人茨木若竹学園サニー幼稚園

1、 本園の教育目標

子どもたちがしっかりと、正しく、まっすぐのびる「自分の木」になれるよう、じょうぶな「根っこ」を育みます。

2、 本年度、重点的に取り組む目標・計画

本年の年間行事計画と「ことば」「かず」「もじ」「描画・造形」「体育」「音楽」「タブレット」の指導計画により、子どもたちの健やかな心と体、豊かな人間関係、環境を思いやる心、ことばの確立、豊かな表現力を育てます。衛生教育・安全管理・防災・防犯の強化を図ります。

3、 評価項目の達成及び取組状況

A：よく達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

教育目標と指導計画に関して

評価項目	評価
① 園の教育方針に基づき保育をするように心がけて保育を行った	A
② 本年度の年間行事計画をスムーズに実行できた	B
③ 指導計画に基づき健やかな心と体や豊かな人間関係を育むことができた	B
④ 環境問題に配慮した教育をした	B
⑤ ことば・かず・もじ・タブレットの指導計画を実践できた	B
⑥ 描画・造形・体育・音楽で豊かな表現力をつけることができた	A
⑦ 学年ごとに年齢に応じた指導ができた	B
⑧ はげみ表を使用することにより、子どもたちが生活習慣を身につけた	B
取組状況	指導計画に基づいて行った保育と子どもの実態に合わせて検証し、「see・do・plan」を繰り返しながら、教育と実務の充実を図った。職員間での園内研修・情報交換を行いながら、全学年に対する共通理解を深め、長期的な見通しを持った保育を心がけた。本年度は、和太鼓に力点を置き体幹を鍛えたりリズム感を養った。環境面、専門講師による指導や生活習慣に関しては更なる改善が必要。保護者からは自主的なあいさつ・片付け・ものを大切にするなどの生活習慣の指導に関しての要望があった。

環境面に関して

評価項目	評価
① 少子化に伴い、未就園児クラスを実施し成果をあげた	B
② 安全性に配慮した遊具・教具を購入し有効な利用をした	B
③ 小動物を飼育することで命の大切さを伝えることができた	B
④ 季節を感じる壁面づくりや遊びを取り入れた	A
⑤ 全体を見ながら園児の小さなことにも気がついた	B
⑥ 感染症対策を実施しながら清潔な環境を作れた	B
⑦ 送迎バスの安全対策を見直し強化した	A
取組状況	少子化・保育園志向が進むなか園児が今年も減少している。ホームページやブログによる発信をして園児を増やす取組みをした。子どもの遊び場、生活の場として各園児に安全・快適で豊かな充実した園での生活を送れるように目を届かせてきた。感染症対策、不審者侵入や送迎バスの園児置き去り防止、防災教育や避難訓練などを再確認し、チェック体制を強化した。園庭遊具購入など老朽化対策を進めたが来年以降も取組みをしていく。保護者からは防犯・防災など安全対策の評価が高かった。

保育面に関して

評価項目	評価
① 子どもたちと行事を通して成長を感じた	A
② 季節の行事や日本の伝統に対する理解を伝えた	B
③ 専任講師と質の高い指導をした	B
④ 指導のための研修などを受け、より深い指導ができた	B
⑤ 多様化に伴いそれぞれのケースに対応した	B
取組状況	教育の質の向上を図るための職員の研修が必要であるが、職員少数につき園外研修の参加が困難である。専任講師との研修や連携により良い教育をめざす。保護者からは外遊びや行事など楽しく通園していて日本文化を伝える季節感を育む行事や植物栽培など家庭では経験できないことを経験でき、この幼稚園に入園させてよかったと高く評価された。

保護者への対応

評価項目	評価
① 保護者と密に連絡をとり、子育てや教育に関する相談に寄り添った対応した	A
② 園だより・クラスだより・ブログ・掲示板などで園の様子を伝えた	B
③ 保護者の生活環境に応じ、延長保育や未就園児保育を充実させた	B
④ 事故や災害の際の対応を速やかに行えるよう訓練を実施した	A
取組状況	保護者からの相談・意見の一つ一つに対して保護者の立場から物事を考えた丁寧な対応に心がけ、また園で起きた事故に関しては迅速な開示と説明責任を果たすことに心がけた。ブログの更新に関してはスムーズに行った。預かり保育、未就園児クラスや親子教室など更なる保育の充実を図り家庭や地域との交流を大切にしたい。保護者からは気軽に子育ての相談できていると評価されている。

4、 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組む課題について教職員の共通認識を得ることが出来た。また自己評価表により各自の課題・目標が明確になり、活動内容に全体の歩調を合わせることができたことにより教職員全員の一致した方向が定まった。

5、 今後取り組むべき課題

3～5歳児の部屋を隣同士に配置し、各クラスを仕切るのではなく日常的に交流できる保育環境を意図して作り、さらにふれあいが高まるようにする。延長保育・和太鼓の課外教室や未就園児保育をさらに充実させるために教育内容を深める。

安心安全な教育環境づくりのため、衛生教育・安全管理・防災・防犯など職員の教育も含めて徹底していく。砂場や園庭の柵など実施予定である。

快適な保育環境に必要な温暖化による気温が高い時期の保育室の環境改善に新しく空調設備を設置をする。

自然災害など発生した際に防災マニュアルに基づき、地域の公的機関（消防署）との連携をとる。耐震化のため建物の工事施工を検討する。情報管理の徹底を周知する。送迎バスの置き取り防止など安全管理を継続して徹底していく。

必要な公文書の受信・発信など処理を適正に行うよう努める。必要な書類を整備し、教職員に周知し、保育計画やマニュアルなどは定められた場所に保管し誰でもわかるように整備を進めていく。

6、 学校関係者の評価

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価の結果、本園の教職員は経験年数によりその共通認識・使命感に差があるが、教諭経験を積み重ねることによりその差は解消されるとみなし、総合的な判定は妥当であると認識された。

7、 財務状況

公認会計士監査により、適正な運営がされていると認められている。